

2007年7月31日

ブラックロック・ジャパン株式会社

米国サブプライムローン問題と株式市場への影響について

米国におけるサブプライムローンの焦げ付き問題が、経済全体に悪影響を及ぼすとの懸念から、米国を中心に株式市場は大幅下落しています。取り急ぎ弊社ロンドン拠点において株式、並びに債券等の資産配分を決定するストラテジック・インベストメント・グループによる、サブプライム問題がもたらす株式市場への影響についての見解をご報告します。

記

私達ブラックロックでは、以下の理由から現時点においては、今回のサブプライムローンの焦げ付き問題がグローバルなマクロ経済、及び株式市場に影響を与えて株式市場が中長期的に低迷するという可能性は低いと考えます。従いまして、株式は債券と比較して引き続き相対的に魅力度の高い資産であると判断しています。

グローバル経済は引き続き長期トレンド水準の成長が見込まれる

米国経済については、緩やかなペースで拡大する見込みである一方、米国以外の欧州やアジア圏は、米国経済のペースダウンとは異なり堅調に推移しています。その結果、グローバル経済は、ブラックロックが考えている長期トレンドである4~6%程度の成長が今後も継続すると予想しています。

企業の財務状況は健全

企業部門は概してキャッシュ比率が潤沢にあり、且つ収益状況も良好で、財務状況は健全です。従いまして、現在はクレジットクランチ(信用収縮)が発生するような状況にはないと考えます。

M&A(企業の合併・買収)活動は引き続き活発

企業の負債比率は低く借入余地は大きいこと、さらに、プライベートエクイティの投資意欲は引き続き根強く、その結果M&Aの動きがこれで終焉となる可能性は低いと考えます。

社債と株式の相関は必ずしも高くない

債券の信用スプレッドと株式の相関は、1990年代に信用スプレッドが拡大しても株価が上昇した局面があったように、必ずしも高くありません。

ブラックロックでは、一連のサブプライムローンの焦げ付き問題が、マクロ経済や株式市場全般に構造的な影響をおよぼすとは考えていません。グローバル経済のファンダメンタルズは堅調に推移しています。また、企業のバランスシートは改善しており、金融機関も過去と比べてしっかりした資本基盤を築いています。従いまして、サブプライムローン問題の影響は今後、調達コストの上昇に伴うM&Aのペースダウンや株価変動性の高まり、さらに大型優良企業株価の対小型企業に対するアウトパフォーム等という副次的事象に留まるものと考えます。加えて、企業の収益見通しは依然保守的で、今後上方修正されることが期待されます。さらに、現在はバリュエーション的に債券がやや割高であるのに対し、株式市場では緩やかな成長の元値上がりが見込まれると予想することから、引き続き株式は債券と比較して魅力的な資産であると判断しています。

以上

当資料は情報提供を目的として作成されたものであり、有価証券の売買の勧誘を目的とするものではありません。当資料は弊社が信頼できると判断した資料・データ等に基づいて作成しておりますが、その正確性および完全性について保証するものではありません。また、当資料中の各種情報(予測を含む)及びデータは過去のものであり、今後の成果を保証するものではありません。更に、当資料中のコメントは作成日現在の弊社の判断を示したものであり、今後の経済動向や市場環境等の変化、あるいは金融取引手法の多様化に伴う変化に対応し予告なく変更される可能性があります。

投資信託は株式等の値動きのある証券(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資しますので基準価額は運用実績によって変動し、その元金の保証や一定の成果をお約束することはできません。従いまして投資信託に投資した資産の価値の減少を含むリスクは投資信託をご購入のお客様が負うこととなります。弊社の投資信託を取得される場合には、投資信託説明書(目論見書)を取得申込み前または申込みと同時に御渡し致しますので、必ず内容をご確認のうえ、ご自身でご判断下さい。尚、投資信託は預金保険機構の対象商品ではありません。